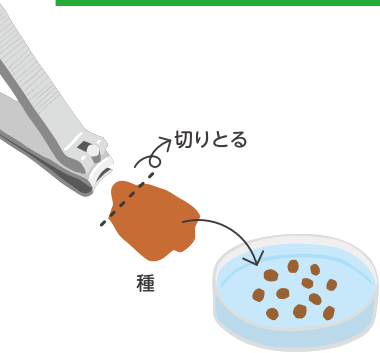


ーゴーヤーの育て方ー
育ててみよう!

緑のカーテンで代表的なゴーヤーの育て方をご紹介します!



① 種まき



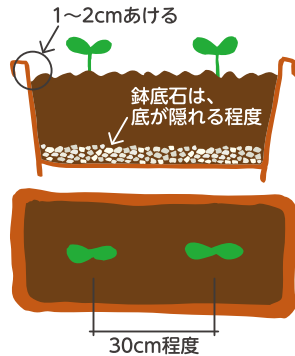
種は4月下旬から5月中にまきましよう。前もって種を一晩水につけたり、爪切りなどで種に切り込みを入れ、暖かい室内で発芽させるといいでしょう。

ゴーヤーの種の発芽適温は、25～28℃と高めです。



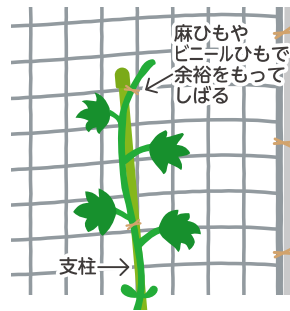
ペットボトルに水と種を入れてシャカシャカ振ると、種に傷がつき、芽が出やすくなったり、吸水させたりできます。

② 苗植え



苗や種を植える間隔は30cm程度にしましょう。苗を植える場合は4月下旬から6月上旬がよいでしょう。初めて育てる方は苗からおすすめです。

③ つるの誘引



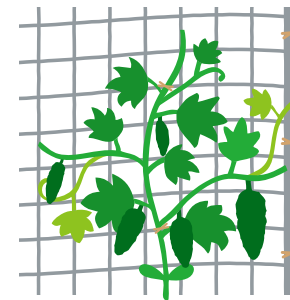
つるが伸びてきたら、つるや葉がネット全体に広がるように這わせてあげましょう。つるを誘引する際は、麻ひもやビニールひもなどを使って、つるを傷めないように余裕をもつとめるとよいでしょう。

④ 摘心



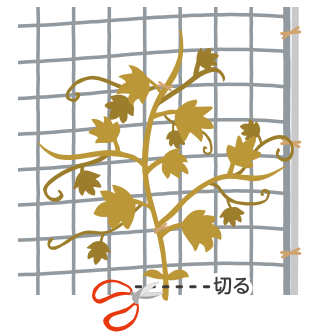
親づるが1mぐらいになったら、親づるの先端をカットします。ゴーヤーの実は親づるではなく、子づる、孫づるにできやすいと言われています。摘心してたくさんつるを増やして、カーテンとしてたくさん葉を茂らせましょう。

⑤ 収穫



ゴーヤーの実は7月下旬から9月上旬くらいまで収穫できます。(ゴーヤーは放っておくと黄色くなって割れてしまいます)。集合住宅などの高層階では、受粉する虫が来ない場合があります。その場合は、雄花の花粉を雌花に人工授粉しましょう。

⑥ 片付け



秋、日差しが弱くなってきたら終了です。片づけをして道具は保管、種は翌年のためにとっておきましょう。先に茎を切って、ある程度枯れてから片付けるとネットからつるが外しやすいです。

※種の取り方はQ&A(14ページ)を参照して下さい。

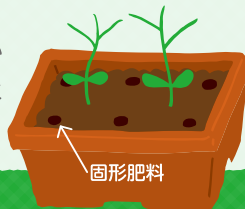
水やりについて

春頃や梅雨の時期(5～6月)は根腐れしやすいので、乾いたら水やりする程度。夏場はプランターの水分の蒸発・流出が早く、しかも伸び盛りになるとよく乾くので、水は毎日十分にあげます。真夏は、朝・夕に水やりするといいです。雨水を貯めておいたものやクーラーで除湿された水などを使えば環境にやさしいですね。



追肥について

液体肥料は1週間に1回程度、固形肥料は1ヶ月に1回程度あげましょう。できれば有機肥料で育てたいですが、初めてだと難しいこともあるので、園芸店に相談するとよいでしょう。固形肥料は株元から離れたところに与えましょう。



病害虫対策について

葉が茂りすぎると風通しが悪くなり、病気になりやすいので、葉を間引くなどして風通しをよくしましょう。また、病害虫対策には環境にやさしい保護液や木酢液など植物性のものを散布しましょう。詳しくは、園芸店に相談してみましょう。



その他のポイント

毎日様子を見てあげるのが一番です。育成の途中は写真を撮ったり、成長の様子を記録しましょう。温度測定をしたり、エアコンの使用頻度をチェックしてみてください。落ち葉がお隣のお宅に落ちたりしないよう工夫をしながら、ご近所の方に迷惑をかけないように、気をつけて栽培しましょう。

